

【事業名】 大阪狭山市クビアカツヤカミキリ対策事業
～市の木「さくら」を守り、大阪府南部地域の生物多様性の保全へ～

【団体名】 大阪狭山市

令和3年度 生物多様性
保全推進支援事業
実績報告書別紙10-6

事業の背景・目的

平成27年に大阪狭山市北部でバラ科の樹木を主に食害し、枯死させる「クビアカツヤカミキリ」の生息が大阪府内で初めて確認され、市内公共施設を中心に年々被害を拡大しつつある。今後、被害を拡大させないため、行政、市民、事業者、関係機関等と連携した対策をすることで、個体の防除と生息域の封じ込めに努め、市の木「サクラ」を守り、大阪府南河内地域の生物多様性の保全へ繋げていく。

事業の内容

ア 被害状況の追跡調査

被害状況調査と合わせて、前年に防除対策を行った被害木の追跡調査を行い、薬剤やネット設置の効果を検証した。

イ 防除対策事業（被害拡大防止と生息域の封じ込め）

被害状況調査に基づき、被害状況に応じて検証結果に応じた防除対策（薬剤注入、ネット設置、伐採）を行った。また、大阪府立環境農林水産総合研究所より協力をいただき、「被害防止対策重点区域」である狭山池公園において、ネット設置による被害予防効果の検証を行った。

ウ 情報発信及び普及啓発

前年に引き続き、大阪府・ボランティア団体と連携し、「被害防止対策重点区域」である狭山池公園周辺の成虫捕獲活動を行い、被害状況や防除方法等の啓発を行った。

得られた成果

継続して右表のとおり薬剤注入やネット設置、伐採を行った。今後もそれぞれの被害状況に応じて様々な防除対策を講じる必要がある。

継続的に行ってきた普及啓発により、地区会や公園利用者、事業者からも被害拡大防止に向けた取り組みへの協力をいただいております、成虫発生時期には引き続き防除活動を行っていく。また、伐採を行った桜の植替えを望む声も多数寄せられているが、周辺地域で被害が終息するまでは再度被害を受ける可能性があることから植樹できないため、引き続き広域的な防除対策を実施する。

年度	薬剤注入数	ネット設置数	伐採数
R2	163本	103本	55本
R3	106本	139本	150本